

鳥取市の学校給食の基本構想に係る市民政策コメントに寄せられた意見及び意見に対する市の考え方

学校保健給食課

- 1 実施期間 令和元年12月18日（水）～令和2年1月13日（月）
- 2 提出状況 12人（意見総数56件）

お寄せいただきましたご意見に対する考え方は次のとおりです。
 貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

番号	御意見等の概要（提出された意見を内容ごとに区分し表示しています）	該当ページ	市の考え方
ア) 安全・安心な学校給食の提供に関する意見（衛生管理について）			
1	配給先の学校への衛生管理をもう少し徹底する必要性がありはしないかと考える。	P12	ご意見ありがとうございます。本施策の推進にあたり参考とさせていただきます。
ア) 安全・安心な学校給食の提供に関する意見（学校給食献立について）			
2	④「学校給食の指導計画・献立作成計画に準じて、統一的な献立となるよう整合を図ります」とありますが、今も基本を守りながらセンターごとに工夫がされていると思います。統一的な献立にこだわることはないと思います。	P12	合理的に物資を調達し、物資の調達状況や栄養バランスをふまえ、献立を工夫する内容に変更します。
ア) 安全・安心な学校給食の提供に関する意見（給食費について）			
3	基本方針1：安心安全な学校給食の持続可能な提供について ⑤では「給食費（収入）と調理コスト（支出）とのバランスが取れるよう」と書かれているが、何を持って「バランスが取れる」と言うのかがわからない。学校給食法の第11条に経費の負担がうたわれており、そもそも「バランスが取れる」ものだとは思わない。⑤は不要。	P12	学校給食法第11条の経費の負担については、学校給食の実施に必要な施設及び設備に要する経費並びに学校給食の運営に要する経費のうち政令で定める者は義務教育諸学校の設置者の負担とする。この経費以外の学校給食に要する経費は、学校給食を受ける保護者の負担とされており、給食費として主に食材の購入費に使用しています。 学校給食運営において今後も継続し検討していきます。
4	⑤「給食費（収入）と調理コスト（支出）とのバランスがとれるよう、経済的で効果的な学校給食運営」とあるが、そもそもバランスなどとれるわけがないと思います。		
5	最近、給食の内容と給食費の値上げのニュースを耳にするが、鳥取市は大丈夫なのか？もし、値上げしていないで給食の内容に影響がでるのであれば、安全で安心な給食のためには少々の値上げはやむを得ないと思うが、できれば給食費を値上げしないでやりくりして欲しい。	-	

6	<p>(1) 基本方針1の《具体的な施策》⑦給食単価の統一を計る→単価の統一は、各保護者の集金業務のうえでも、十分に理解されるべきことである。しかしながら、各給食センターでの新市と旧市のセンターでの物資の購入、炊飯業務の相違により、今現在では困難ではないかと思う。この解消のためには、基本方針3の《具体的な施策》1のセンター統合等に向けた策定に関与するし、物資購入の委託にも関与するので、すぐに統一できることは難しいと考える。</p>		
7	<p>⑦「違いがあることに合理性がある事項を除いて、給食費単価の統一を図るように検討します」とあるが、給食費単価の統一を図る必要はないと思います。</p>		
8	<p>⑦で「違いがあることに合理性がある事項を除いて」とあるが、具体的にどのようなことがそれに該当するのが重要な点である。その判断基準が今後の議論になるものなのか、それとも暗に含められているのかがよくわからない。何か考えていることがあるのであれば、きちんと書くべきである。</p>	P12	<p>現在の施設、提供食数、米飯提供、物資調達の状況の違いがあることから単価の違いは合理性があると考えています。</p> <p>学校給食運営において、今後も継続し検討していきます。</p>
9	<p>⑦では「給食費単価の統一を図るよう検討」とあるが、単価統一を優先にするのか、それとも他のことを優先にするのかで考え方が違ってくる。前述の(2)とも関係することだが、考え方の基準によって議論が変わってくる内容だと思うので、単価統一ありきではやるべきではない。</p>		

イ) アレルギーに関する意見

10	<p>基本構想に立脚した計画にするには、小規模化したほうがアレルギー対応においてより細やかな対応が実現可能となる。</p>		<p>アレルギー対応につきましては、「鳥取市学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」に基づき、学校、学校給食センター、鳥取市教育委員会が連携し、施設の規模に関わらず安全性の確保を最優先に実施しています。</p>
11	<p>アレルギー対応について、愛知県の学校給食も参考にさせていただきたい。なぜならば、愛知県は食物アレルギーの専門治療施設があり、食物アレルギーについて情報提供が多くあるからである。こうした自治体の姿勢からもぜひ参考にさせていただきたい。愛知県も卵、乳製品の除去代替はあるようだが、小麦も今後追加の検討段階とのこと。鳥取市も小麦も長期的課題として3・5・10年先を想定して検討していただきたい。</p>		<p>ご意見の内容及び先進地の事例等については、鳥取市学校給食食物アレルギー検討委員会へ報告させていただきます。</p>
12	<p>現在アレルギーを持ち、学校給食を利用している家庭、児童および未就学児の家庭などにも意見を募って欲しい。また小学校、中学校に就学していない子どものアレルギー統計も加味して、アレルギー対応の設備更新対応をしていただきたい。</p>		<p>ご意見の内容及び設備の更新等については、鳥取市学校給食食物アレルギー検討委員会へ報告させていただきます。</p>
13	<p>食物アレルギー児は増加傾向にあるとあるが、統計は取られているのか？またアレルギーの種類別、小学校および中学校のアレルギー児の人数、それらの割合が時系列のデータで示せれば、今後の設備更新およびアレルギー対応についての方針として参考になると思う。</p>		<p>アレルギーを有する児童生徒の把握につきましては、学校生活を送る上で、運動・校外学習・給食・緊急時の対応などを確認するため、毎年調査を実施し把握に努めています。</p> <p>また、調査結果については、鳥取市学校給食食物アレルギー検討委員会へ報告しています。</p>

14	<p>基本方針1：安全・安心な学校給食の持続可能な提供において、方向性で食物アレルギー対応等の対策を強化し、との記載があるが、対応の拡大と捉えられる表記と思うがいかがか。</p> <p>学校現場では、給食時のアレルギー対応では、複数人の対応を担任一人で行っており、今以上の対応を求めることは反対である。また、文科省の示す学校給食における食物アレルギー対応指針の中では、食物アレルギー対応の6つの大原則に、学校及び調理場の施設設備、人員等を鑑み無理な（過度に複雑な）対応は行わない。とある。再考すべき。</p>	P12	<p>ご意見いただきましたとおり、文部科学省の「学校給食アレルギー対応指針」に示すとおり、学校及び調理場の施設設備、人員等を鑑み、無理な（過度な複雑な）対応は行わないよう考えています。</p>
15	<p>アナフィラキシーの既往歴があったとしても、食物アレルギーは年齢とともに良くなっていくものですので、病院での経口負荷試験（実際に食べてみて食べられる量を判断するテスト）の結果を見て、主治医や保護者との協議をした上で、判断していただきたいと思います。</p>		<p>乳、鶏卵のアレルギーを有する児童生徒において、アナフィラキシー既往歴のある児童生徒については、現在の学校給食センターの能力的にコンタミネーション（微量混入）の恐れがあることから除去食、代替食の提供は行っていませんでしたが、鳥取市学校給食食物アレルギー検討委員会で検討した結果、令和2年度より医師の診断により除去食、代替食を食べさせてよいと判断された場合、対応するよう進めています。</p>
16	<p>過去にアナフィラキシー既往歴があっても、現在の改善状況に応じて学校給食の提供 アナフィラキシー既往歴があっても、現在の状況を考慮して、保護者の要望と医師の承諾で検討して頂きたいです。</p>		
17	<p>献立自体をアレルギーの子も食べられる献立に変える、という提案をさせていただきたいと思います。そうすることで、対応するアレルギーの種類を増やしたとしても、誤食をなくすことが可能になります。</p>		<p>低アレルゲン献立につきましては、毎月で行われる学校栄養教諭、学校栄養職員研修会及び献立委員会等へ報告させていただきます。</p>
18	<p>アレルギー品目の対応の拡大に関しまして、専用施設が無くても、献立の改善で皆と同じ給食が実現できます。早期に、アレルギー対応が可能である食材選びの見直しを、どうかご検討ください。</p>		<p>毎月で行われる学校栄養教諭、学校栄養職員研修会及び献立委員会等へ報告させていただきます。</p>
<p>ウ) 食育の充実に関する意見（残菜等の削減）</p>			
19	<p>学校の食育の充実のため、給食センターの方のお話を聞く機会を設定してくださったり、生産者の方や保護者等の給食試食会の実施を提案してくださったりしています。学校でも、子どもたちに食の大切さを伝え、残菜等の削減に向けた取り組みを実施し、完食できる環境づくりをめざしていきたいと思います。</p>		<p>ご意見ありがとうございます。今後も学校栄養教諭を中心に学校と連携して食育の充実を図ってまいります。</p>
20	<p>「食品ロスの削減の推進に関する法律」が令和元年10月1日に施行された。残滓については、このことを踏まえた明記があってもいいのではないかと。子どもたちに世界の食糧問題についてもふれながらできる限り残すことがないような意識も持たせたい。</p>	P13	
21	<p>かかっている費用（コスト）が見えないから、食べ残しがあるのではないかと。子どもも保護者も食べ残しは“もったいない”という気持ちを持ってほしい。</p>		<p>昨年10月に施行の「食品ロスの削減の推進に関する法律」で示されるように、食べ物を無駄にしない意識の醸成とその定着を図っていくことが重要であることを踏まえ、本構想（案）基本方針2：食育の充実と地産地消の推進の具体的な施策③に記載したところです。</p>
22	<p>各学校では残菜量を測定し、それを各学校に報告して、食の大切さを伝達している。それを受けて、各学校では学校保健委員会や児童会・生徒会の給食委員会等でどう残菜を少なくできるのかに取り組んでいます。</p>		

ウ) 食育の充実に関する意見（栄養教諭・学校栄養職員の配置について）			
23	県との協議で、すべての対象校に職員配置ができるよう要請し、不十分な学校には市からの配置が必要ではないか。	P13	<p>学校栄養職員を含む学校の教職員の配置については、義務標準法に基づき鳥取県教育委員会が行っており、本市においてはP 5・6 学校給食センターの概要で示すとおり15名が各学校給食センターに配置されています。</p> <p>本市としては、食育の充実を図るため、栄養教諭、学校栄養職員の役割が重要となってきたことから、本構想（案）基本方針2：食育の充実と地産地消の推進の具体的な施策⑥に記載したとおり、適正な配置を継続的に要望していきたいと考えております。</p>
24	食文化の継承が、家族では難しくなっている現代では、栄養指導は保護者も巻き込んだものが求められる。そのためにも、栄養職員の配置が必要ではないか。		
25	⑥「栄養教諭・学校栄養職員の増員は、各学校配置をめざして継続的に要望します」と変えるべき。		
エ) 地産地消の推進に関する意見			
26	⑦の取り組みは大事なことなので、「諸課題の解決に向けた検討・協議」については、その内容がわかるように公表・公開の仕方を考えてほしい。	P13	<p>公表・公開の仕方を検討します。</p> <p>今後も地産地消の推進を踏まえて食材の調達と供給体制について検討したいと考えています。</p> <p>地元食材の使用率の目標設定については引き続き検討したいと考えています。</p>
27	基本構想に立脚した計画にするには、小規模化を。 地産地消率の向上：大規模化すれば、同一規格の食材供給が求められ地産地消率は下がる。		
28	⑧では県内産食材使用率の目標値76%しか示されていないが、地元産食材の使用率の目標を持つべきである。		
29	⑧地元産食材（鳥取市産）の消費率の目標はどうするのか？記載が必要と思う。		
オ) 食材の調達方法に関する意見			
30	⑨は、何が言いたいのかは何となくわかるが、もっとわかりやすく書いてほしい。		ご意見を踏まえ、わかりやすい表現となるよう検討します。
31	⑨この項のみ、具体的ですが、かえって、何が言いたいかわからない。		

32	<p>①「食材を一括発注することで、食材の価格を抑え、収支のバランスの取れた～効果的な調理業務を行う。さらに、給食費の平準化をはかる」と。 地元の食材を調達することで、地元の農業・産産を潤すことになり、結果として食材単価の高騰になったとしても、利益の大きいことであり、一括食材調達を優先すべきではない。課題とともに、一方的な解決の押し付けまで書かれている。</p>	P13	
33	<p>⑩の「食材調達の一本化を検討」については、これも「ありき」でやらないこと。 これだけ広い鳥取市で、地域の実情も違う中で、逆に一本化は無理があると思う。「地元産食材の安定供給ができる体制」というのは生産体制だと思うので、そここのところに力を入れてほしい。</p>		<p>地産地消の推進を踏まえ、食材の調達方法を検討していきたいと考えています。</p>
34	<p>⑩鳥取市産の地元産の食材調達の安定供給できる体制、生産体制を本気で作っていくことが大切である。（うちの食材調達の一本化）は検討する必要はない。削除すべき。豊かな鳥取の食材を子供たちに提供するために）</p>		

カ) 学校給食センターの設置に関する意見

35	<p>基本構想に立脚した計画にするには、小規模化を。 「心身の健全な発達」「食育の推進」を具体化できる計画であるためには、現状より大規模な施設とならないことが必要ではないか。また、食育を推進するためにも小規模施設のほうが、実現の可能性はさらに広がる。例えば、生産活動への参加、生産者との交流など。</p>		<p>センターを小規模化することで、生産活動への参加、生産者との交流などが行いやすいこともあります。一方で、安定供給が損なわれる、単価のバランスが悪くなる、アレルギー対応が困難になるなど、最も大切な安全・安心が損なわれることが懸念されます。こうしたことを踏まえつつ、学校給食センターの規模については、今後、学校給食センター整備計画（仮称）において検討してまいります。</p>
36	<p>学校給食は安心安全であり、安定した供給が目的であるが、今後の労働人口の減少による担い手不足の解消や設備負担を軽減させるためにも、給食設備の共有利用もいいのではないだろうか。市が管理する保育園給食なども学校給食センターで受け持つなどすれば、保育園の給食従事者も労働人口に加味でき、設備投資も減らせるのではないだろうか。そのためには配送の問題など諸々課題はあると考えられるが、一つの選択肢に思う。</p>		
37	<p>基本方針3：次世代に負担を残さない学校給食センター設置 において、学校給食施設・設備の充実を図り、次世代に負担を残さないよう、施設・事業運営を踏まえ施設の配置を検討します。との記載があるが、いまだ合併時のままの状況を維持していることは、驚きである。早急に見直すべき。早急に施設統合し、無駄な維持管理費を削減すべきであることから、次世代に負担を残さないは納得性が高く、高く評価した。少子化も加速する、早急に取り組んでほしい。</p>		
38	<p>学校給食センターの位置図を見ると、全体のバランスが悪いように思う。センターの概要ではほとんどの施設が合併以前に建てられているが、合併してから15年が経過するというのになぜそのままなのか、少なからず学校給食センターの予算に税金が使われていると思うが、子どもの数が減少する中、今後のことを考えて計画してほしい。</p>		

39	<p>現在、給食センターは、センターによって食数の差が4000食以上あり、施設の老朽化も進んでいる。センターの統合のことが書いてあったが、公平性、効率性を考えると、小規模の給食センターは、老朽化に伴う改築を行う時に、統合すべきである。例えば、青谷、鹿野、気高、湖東を一つにして、老朽化した施設をアレルギーにも対応できる最新の施設としてはどうか。</p>	P14	<p>ご意見ありがとうございます。 いただいたご意見等もふまえ、適正なセンター数については今後、学校給食センター整備計画(仮称)において検討してまいります。</p>
40	<p>(3)基本方針3の《具体的な施策》1 学校給食センター統合等に向けた・・・ことについては、「平成20年3月の鳥取市の学校給食基本構想」では、「学校給食センター施設統廃合及び調理業務の民間委託のスケジュール」が立案されている。このスケジュールによると、新しいセンター建設についての検討は平成24年度以降からになっていた。そこで、この基本構想(令和2年3月)でも、ある程度のスケジュールがあると分かりやすいと感じた。</p>		
41	<p>現在でも栄養士一人当たりの担当数の差など課題があると記されていることと、今後の労働人口減少の問題などがあり、給食を作る側の負担が増えること、給食提供の維持が難しくなることが考えられる。対策として、給食センターのメニューを全店で統一、食材の一括購入など少ない人数でも給食供給が可能な体制づくりも必要に感じる。 またセンター数を増やすのではなく、今後の学校統廃合および児童数、アレルギーを持つ児童数、労働人口の統計をもとに労働者を確保出来、給食供給できる施設数を検討し、その結果現在よりセンター数が減少しても良いのではと思う。センターを増やすことにより人、設備、費用管理などが増えるからである。</p>		
42	<p>①の「学校給食センターの統合等に向けた」は削除すべき。統合前提の基本構想にするべきではない。</p>		
43	<p>①「鳥取市公共施設再配置計画を踏まえ」「学校給食センターの統廃合に向けた」は削るべき。</p>		
44	<p>センターの統廃合につながる④は不要。削除すべき。</p>		<p>センター数の適正化(センターの再配置)は必要ですが、ご意見をふまえ、表現の見直しを検討します。</p>
45	<p>センターの統廃合につながる④は削除すべき。</p>		
<p>キ) 学校給食の運営に関する意見</p>			
46	<p>⑥「調理から配送までの業務、にとどまらず、工事の発注方法や運営を総合的に踏まえて事業手法を検討します」とありますが、結局、今はやりのやりかたで県外資本がもうかる仕組みになってしまうのではないかと地元や今担っている業者が参画できるような方法を検討すべき。</p>		<p>地元業者の参画等につきましては、基本方針3:調理から配送までの業務、工事の発注方法や将来の運営を総合的に踏まえてより効率的かつ効果的な事業手法等を検討したいと考えています。なお、地元経済への波及効果を踏まえ、可能な限り地元業者が参画等できるよう検討します。</p>

47	④の「民間委託実施の効果を検証し」の意味がわからない。平成22年度に委託事業の検証・評価がされたが、それ以降の報告はないという認識である。今後は、定期的に検証することなのか。あわせて、検証結果は公表すべきと考える。	P15	調理委託業務の実施状況については、平成23年3月に外部評価を含め、検証・評価を行いました。これ以降、本評価を基に継続して各学校給食センターの業務実施状況点検と指導を行っているところです。調理業務の委託については、安全でおいしい給食の提供、業務効率の向上、栄養教諭等による食指導の充実に加え、他業者との競争の中でより良い学校給食を提供しようとする意欲の向上、衛生管理の向上などが見られるなど、一定の評価をしており、今後も調理業務は民間委託を基本と考えています。
48	労働力人口の状況が示されていたが、交通・配送業、飲食業などの求人広告をよく目にする。働き手が減ってきている中で、給食の調理、配送はこれからどうなっていくのか不安に思う。人がいないので給食ができない、ミスが発生するのは困る。働く側も、少ない人数で調理しなければならないとなれば、大変だと思う。そのあたりも考えてほしい。	-	調理・配送の委託業者と連携をとりながら今後も安定した学校給食の提供に努めてまいります。
ク) その他			
49	建物維持費、人件費、食材費、運搬費など給食提供にどの程度の費用がかかっているのか。市民が負担している経費は何か。	-	学校給食の実施に必要な費用としては、給食センターの施設・設備の維持管理費、また給食センターから各学校への配送、調理業務等に要する経費（以下、「施設・設備の維持管理費等」という。）とそれ以外の食材の経費があります。施設・設備の維持管理費等は全て市が負担しています。食材の経費については、保護者に給食費として負担していただいています。 今後50年の施設の修繕・更新費用は、鳥取市の公共施設白書では1年平均で4,800万円、50年間で23億8,000万円の費用がかかると試算されています。
50	P11 ② 老朽化・陳腐化した施設・設備の更新 「施設の老朽化や設備の陳腐化が進み、～作業の妨げに等に繋がっていますので、適切な施設・設備の更新が必要です。」にとどめておくべきです。以下の「本市の財政状況や公共施設～費用効果の高い～必要があります」はどうしてもいれたければ、④としておこして記載すべきです。本市の別な視点からの事情と考えるからです。	-	今後、限られた財源の中で効率的な公共施設の整備（更新）や質の高い公共サービスの提供を進め、将来にわたって持続可能なまちづくりを進めていくために公共施設マネジメントに取り組むこととし平成27年2月に「鳥取市公共施設の経営基本方針」を策定し取り組みを進めています。 学校給食センターについても、公共施設マネジメントの考えに沿って費用対効果の高い管理・運営に努めています。
51	20年度の基本構想の反省は生かされているのだろうか。「はじめに」の部分に、「平成20年度3月に「鳥取市の学校給食の基本構想」を策定し・・・統廃合になどに取り組んできました。」そして、最後のくくりとして「このような学校給食を取り巻く状況や、新たな諸課題へ対応するため、取り組みの指針となる基本構想を改訂しました。」となっている。しかし、平成20年3月に出示された基本構想の反省はどうであったのか、十分に検証されたのだろうか、その辺りのことが書かれてもよいのではないかと思う。	-	本基本構想は、学校給食の取り組みの指針となるもので、平成20年3月に策定された内容、基本的な方向性を踏襲し、学校給食を取り巻く現状や諸情勢を踏まえ内容の見直しを行ったものです。
52	私の経験から言えば、あらゆる企画に対してPDCAを生かしてきた。基本構想も単なる空論に終わらせるのではなく、「生かされる」基本構想でありたい。そのためにも、PDCAを生かす工夫をしていただきたい。	-	本基本構想の実施については、基本方針ごとに方向性と具体的な施策を示しています。この基本方針に沿って新たな諸課題に対応してまいります。

53	良いことばかり書いてあるが、実現できるのか。働き手・費用など確保できるのか。絵にかいた餅ではこまる。	-	
54	《具体的な施策》については、もっとも重要な取り組み事項だと思います。ここが肝心なところだと思う。どう今後にかすのか空論で終わらないようにしてほしい。	-	社会情勢や財政状況を踏まえ実現可能な内容であると考えています。
55	<p>非常にきめ細かな基本構想ととらえる。学校を取り巻く現状（児童・生徒数の今後の数給食センターの状況等）を細かく分析し、将来を見据えた基本構想であると大変評価できる。</p> <p>また、リーダーシップをもって前向きに鳥取市の子どもたちを育ててほしいです。「ふるさとを思い 志をもつ子」「鳥取市の子ども・子育て支援」を後押しするものでありたい。</p>	-	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>次世代を担う子どもたちの望ましい食習慣の形成と、人口減少や財政状況などこれからの社会情勢を見据えて次世代に負担を残さない学校給食センターのあり方等それぞれの基本方針に基づき進めてまいります。</p>
56	<p>3.学校給食基本構想のコメント公募について</p> <p>公募のお知らせはホームページと市報以外にあるかもしれないが、小学校、中学校に加え、今後就学予定の家庭に向けて学校、園を通じて案内を出して欲しいと思う。なぜならば、私は市報でたまたま見つけたが、もし見つけてなかったら、この貴重な機会を逃していたと思うからである。公募しても多くの目に届かなければ声を集めることはできないと感じる。学校や園を通じて案内があれば、学校給食に関わる人々を中心に学校給食について考える機会となり、より広く市民の声を聞くことが可能ではないだろうか。</p>	-	ご意見を参考とし、より多くの方からの意見をいただけるよう努めてまいります。